



世は変わり、家づくりも進化を続けています。木造建築の花形は昔から大工さん。

でもその仕事は随分様変わりしています。

「プレカット」

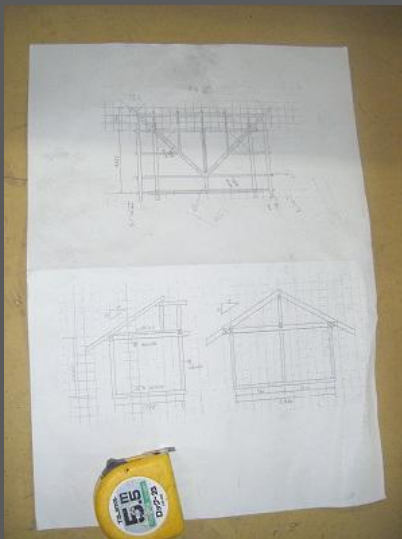
一すなわち工場です。事前に木材が加工され、現場ですぐに木組みができるシステムが今は主流です。加工の正確性はアップし、コストダウンにも。おかげで大工仕事もシンプル・スピーディーになりました。

しかし、近代ホームでは自社で若手大工を育成しています。これからの時代を担う若い大工にも、昔から引き継がれてきた“匠の技”を伝えていきたい。大工の伝統を学ぶ場、それが「大工王」です。

課題は、一人1棟、3m四方くらいの軸組み（木組み）を作ること。図面をおこし、木材に墨付けし、加工、組み立て。と、言ってしまうれば簡単ですが、釘を使わず継ぎ手を組み合わせて立体にするのは、寸分違わず木を加工する高度な技術が必要です。ゆるくてもきつくても、うまく組み合わず安定した軸組みはできません。

入社1年足らずの新人大工たちにとっては、至難の業ではありますが、先輩兄弟子たちでも、完成させるには3日かかりとなりました。

「こういうことはさあ、やらないと忘れちゃうからさあ」と齋藤棟梁。基本を忘れず、常に学んでいく姿勢が大事なのですね！



これが図面。今回は 3 枚ですが、実際に家を 1 軒建てるには 50 枚も要るんです！



図面をもとに材木に墨付けします。木を切ったり彫ったりするための印をつける作業です。竹でできた“墨さし”と“差し金”という道具を使います。昔はこの差し金 1 本で 1 棟建てていたんですね。



いよいよ加工です。鑿を使って蟻継ぎを作っています。



若手の大工さんたちも、なかなか上手に道具を使いこなしています。



指導は創業から近代ホームを支えてきた稲川親方。社員大工を一から育ててくれている頼もしい親方です！



左は技能士の試験の課題でもある作品です。土台～柱～梁～桁の木組みのミニチュアです。右が、皆でつくりあげた軸組み。家の骨格となるところですね。



世の中どんなに便利になっても、自分の腕 1 本で家を建てられるホンモノの大工さんを育て、引継いでいきたいと思っています。